

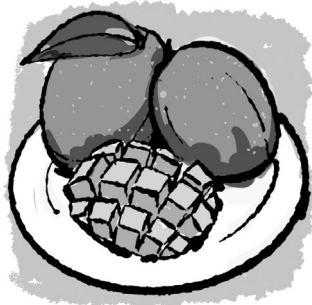
私たちの暮らしの中には、数えきれないほどの人と物が存在しています。家族、仕事仲間、友人や知人。身の回りには机や椅子、スマートフォンや財布など様々な物があります。これらは日々、当たり前のように私たちの側にありますが、それら一つひとつを「生かして」いるでしょうか。

「生かす」という言葉は、「活用する」「引き出す」という意味で使われることがあります。そして、それは単なる道具的な使い方にとどまりません。人や物が持つ「個性」や「可能性」を尊重し、最大限に輝かせるような関わり方が真の「生かす」ということなのです。

例えば「人を生かす」というと、指導したり、助けたりといったイメージが浮かぶかもしれませんが。しかし、それ以上に大切なことがあります。それは、その人の持つ良さや特性を認め、信じることです。

住宅設備会社で働くAさんの職場に少し不器用な新入社員のB君が入社しました。B君の仕事ぶりは、作業が遅く、不注意によるミスも多いので指導役であるAさんは戸惑っていました。ある時、B君と世間話をしていると、とても愛嬌があり、周囲を和ませる力があることに気が付きました。

その一面に目を向けたAさんは、「君がいると職場が明るくなるよ」「いつも周りを和ませてくれてありがとう」と声をかけ続けることにしました。すると次第にB君は、とてもうれしそうに笑顔を見せるようになったのです。それからは仕事に対する姿勢



気づきと感謝で 豊かな人生を

が変わったのか、ミスも減り、段取りよく仕事を進めることができるようになりました。Aさんはこれが人を生かすということなのかと実感したと言います。

人は、自分の価値や存在を認められたとき、初めて本来の力を発揮できるものです。〈どうせ自分なんて〉と思っている人に、「あなたには、あなたにしかできない役割がある」と伝え、背中をそっと押す。これこそ、人を生かすことではないでしょうか。

日々の社会生活の中で「人・物を生かす」ためには、「気づき」と「感謝」の心が必要でしょう。Aさんのように、相手の長所に気づけば、自分自身の言葉も態度も自然と変わって、相手の良さを引き出すことができます。

電気がつく、水が出る、誰かが支えてくれている。それらすべてを「当たり前」ではなく「ありがたい」と感謝の心で受け止め、「ありがとう」と言えるようになったとき、人も物も自然と輝き出すのです。

人や物を生かす生き方は、決して難しいことではありません。日常の中の小さな心がけの積み重ねです。誰かの良さに気づき、言葉にして伝える。物に対して、感謝と敬意を持って接する。これらを意識するだけで、私たちの暮らしは驚くほど豊かになり、心も穏やかになります。

自分の身近にある「人」と「物」に、今一度目を向けてみましょう。そして、そのいのちを「生かす」生き方をしているかどうか。ありませんか。